

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 佐賀県日本語学習支援“カスタネット”

1. 佐賀県在住の外国籍住民への日本語教育支援事業「サガン日本語モデル・プロジェクト」

2. 事業の目的

佐賀県は外国籍住民の散在地域である。佐賀県の中心地である佐賀市以外に在住する外国籍住民の数は増加しているが、地域日本語教室も、支援する住民もその数は増えていない。佐賀市のみで開講する「初級日本語集中講座」と、地域日本語ボランティア教室に外国籍住民が来るのを待つのではなく、外国籍住民が暮らす地域で「初級日本語集中講座」を開講し、講座終了後の受講者と関わりを持ってくれる地域在住日本語支援ボランティアを養成して、外国籍住民が自立した生活ができ、地域住民との交流が深まるように支援する。

3. 事業内容の概要

- ①当団体“カスタネット”が開発した『地域日本語教育モデル』の中の日本語教育専門家による「初級日本語集中講座」を、昨年度に引き続き、佐賀市、唐津市、鳥栖市で開講する。今年度は新たに武雄市でも開講する。
- ②『地域日本語教育モデル』の中の「地域在住日本語ボランティア」を養成する。「地域在住日本語ボランティア」とは、外国籍住民個々に対応できる個々のボランティアのことである。そのために、まず地域日本語教室の空白地域で“出前”講座を開講して、外国籍住民への支援に興味関心のある住民を集める。その後、各地域で興味関心を持った方々を対象とした、ボランティアとしての心構えやスキルを学ぶ「日本語支援ボランティア“連続”講座」を佐賀市で実施する。
- ③地域のボランティア教室で使用できる絵カード・文字カードを作成する。「初級日本語集中講座」及び「日本語支援ボランティア“連続”講座」でも使用する。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

・本事業の実施にあたっては、事業全体を見据えた主だったメンバーによる運営委員会の他に、講座開催予定の各市の市役所に出向いての運営委員会が必要になった。対外折衝担当のコーディネーター（貞松明子・有瀬尚子）が県内各地に行き、市役所の担当者に講座開催の理解を求め、講座開催に協力・支援してもらえよう交渉を行った。

・運営委員会は<メイン>を6回、<地方>を7市で15回、<教材作成>を3回開催した。以下の表には、それぞれに分けて記載する。

<メイン>

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	課題	検討内容
1	平成24年 6月25日 13:30~17:00	3時間	佐賀市 アイスクエア	貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 池上順子 馬場三佳 神代幸枝	事業全体の取組体制を整える	①「初級日本語集中講座」のおおよその開催時期を決定 ②「出前講座」開催予定の4市への交渉について ③教材作成のおおよその予定決め
2	平成24年 8月10日 14:30~17:30	3時間	佐賀市 アイスクエア	貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 馬場三佳 神代幸枝	① 出前講座について ② 教材作成について	① 4市担当者との交渉について報告。多久市・神崎市は名義後援、伊万里市・鹿島市は共催となる。 ② 教材作成の方向性を固める
3	平成24年 9月6日 10:00~16:00	5時間	佐賀市 アイスクエア	貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 池上順子 馬場三佳 神代幸枝	① 出前・連続講座の内容について ② 集中講座について	① 4市担当者との交渉についてその後の進捗状況の報告。チラシについて。出前講座のパワポ作成は貞松が担当。内容を確認。 ② 集中講座開講予定の各市訪問について検討。
4	平成24年 12月3日 14:00~17:00	3時間	佐賀市 アイスクエア	貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 池上順子 馬場三佳 神代幸枝	今後の取組全般について	「出前講座」「連続講座④まで」「集中講座/唐津市・佐賀市・鳥栖市」についての反省と「連続講座⑤以降」の実施計画の確認。 「集中講座 in 武雄市」の交渉準備。
5	平成25年 1月24日 13:30~15:30	2時間	佐賀市 アイスクエア	貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 池上順子 馬場三佳 神代幸枝	今後の取組全般について	「連続講座⑧」以降、特に⑨について準備の確認。 武雄市開催の「集中講座」について交渉結果報告と準備。 教材の試用について報告
6	平成25年 3月15日	3時間	佐賀市 アイスクエア	貞松明子 有瀬尚子	取組全般について総括	決算について(代表と会計が担当) 報告書の作成について(分担分の提出。取

	15:00～18:00		エア	早瀬郁子 池上順子 馬場三佳 神代幸枝		りまとめは代表が行う) 作成教材の提出形式について
--	-------------	--	----	------------------------------	--	------------------------------

<地方>

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	課題	検討内容
1	平成24年 7月4日 15:00～16:00	1時間	鹿島市 役所	貞松明子 有瀬尚子 木原智典	出前講座について	趣意書を持参して「出前講座」の意義について説明。 市報への掲載を依頼。会場は、生涯学習センターエイブルがいいとのこと。会場の予約を依頼。
2	平成24年 7月6日 14:00～15:00	1時間	鳥栖市 役所	貞松明子 有瀬尚子 村山一成 長野雅佐	集中講座について	昨年度と同じ担当者。会場は昨年の市民文化会館より駅に近いサンメッセ鳥栖がいいかもしれない。 後援依頼。市報掲載の締め切りは9月末。日程を金土日に変える。
3	平成24年 7月6日 16:00～17:00	1時間	神崎市 役所	貞松明子 有瀬尚子 栗山倫美	出前講座について	趣意書を持参して「出前講座」の意義について説明。 市報への掲載を依頼。会場は、中央公民館もしくは千代田町ハンギーホール。会場の予約を依頼。
4	平成24年 7月9日 16:00～17:00	1時間	多久市 役所	貞松明子 有瀬尚子 藤瀬英樹 吉永早苗	出前講座について	趣意書を持参して「出前講座」の意義について説明する。 市報への掲載を依頼。会場は、中央公民館がいいとのこと。会場の予約を依頼。
5	平成24年 9月20日 14:00～15:00	1時間	鹿島市 役所	貞松明子 有瀬尚子 木原智典	出前講座について	初めての試みの「出前講座」だったが、予想以上の方々が集まってくれた。今後の連続講座に来てもらい、「鹿島日本語教室」が早くできるようにしたい。
6	平成24年 9月23日 16:00～17:00	1時間	神崎市 中央公民館	貞松明子 有瀬尚子 栗山倫美	出前講座について	身近な場所で「出前講座」を開講して「連続講座」に繋げる意義は大きい。カスタネットの活動を知ってもらえた。市役所の担当部署が決まっていないので、今後の

						支援活動は未知数。
7	平成 24 年 9 月 28 日 14:00~15: 00	1 時 間	唐 津 市 役 所	貞松明子 有瀬尚子 西山将夫	集中講座につ いて	担当者が昨年度と変わっていた。昨年度 の効果を話して、集中講座開講の意義を 説明し、協力をお願い。今年度は大手口 の市民活動センターに変更。
8	平成 24 年 9 月 29 日 16:00~17: 00	1 時 間	多 久 市 中 央 公 民 館	貞松明子 有瀬尚子 田中穂積 市丸	出前講座につ いて	企画課長が講座も受講、人材養成の意 義を理解していただいた。教室開設への 協力を依頼。参加者は非常に積極的だ った。
9	平成 24 年 9 月 30 日 16:00~17: 00	1 時 間	伊 万 里 市 民 セ ン タ ー	貞松明子 有瀬尚子 川原京子	出前講座につ いて	知り合いの担当で、講座終了後に初 の運営委員会開催。受講生にボランティ ア教室の必要性は理解してもらえた。あ とは中心となる人材の養成だが、連続講 座がその役割となるか。
10	平成 24 年 10 月 15 日 15:00~16: 00	1 時 間	鳥 栖 市 役 所	貞松明子 有瀬尚子 村山一成 長野雅佐	集中講座につ いて	集中講座の開催を1か月後に控えての 打ち合わせ。申込み状況について。更な る呼び掛け、声かけについての情報交 換。
11	平成 24 年 10 月 30 日 14:00~15: 00	1 時 間	唐 津 市 役 所	貞松明子 有瀬尚子 西山将夫 神田浩樹	集中講座につ いて	唐津市開催の「集中講座」の反省会。受 講者には喜ばれたが、その受講生が少 なかった。働いている人が多い。周知が うまくいかない。集中講座があることを知 らせる方法はないか。
12	平成 24 年 12 月 10 日 14:00~15: 00	1 時 間	鳥 栖 市 役 所	貞松明子 有瀬尚子 村山一成 長野雅佐	集中講座につ いて	鳥栖市開催の「集中講座」の反省会。 「金土日」という日程を試みたが、それ でも申込人数が少なかった。周知の問題。 会場のサンメッセ鳥栖は駅に近くて受講 生のために良かった。
13	平成 24 年 12 月 25 日 10:30~11: 30	1 時 間	武 雄 市 役 所	貞松明子 有瀬尚子 石橋正子	集中講座につ いて	武雄日本語教室が開設されたので、武 雄市で「集中講座」を開講予定。チラシの 配置場所等を話し合う。武雄市のフェイ スブックに掲載を依頼。会場は武雄市文 化会館内研修室。
14	平成 25 年 1 月 23 日 16:00~17:	1 時 間	武 雄 市 文 化 会 館	貞松明子 有瀬尚子 石橋正子	集中講座につ いて	武雄市開催の「集中講座」の広報につ いて、武雄日本語教室のメンバーにも周知 をお願いした。広報活動の進捗状況につ

	00					いて担当者と情報交換。
15	平成 25 年 3 月 1 日 11:00～12: 00	1 時 間	武雄市 役所	貞松明子 有瀬尚子 石橋正子	集中講座につ いて	武雄市開催の「集中講座」の反省会。佐賀市以外での開催では、講座開講の周知が難しいことが、またわかった。多忙な市長に面会が叶い、日本語教室と集中講座について理解を求めた。

<教材作成>

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	課題	検討内容
1	平成 24 年 10 月 4 日 12:30～14: 30	2 時 間	佐賀大 学	貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 有瀬浩美	進捗状況報告 役割分担 期限設定	<ul style="list-style-type: none"> 作成教材の各取組における位置付けを確認。 各自の進捗状況の報告 今後の予定
2	平成 24 年 12 月 26 日 10:00～12: 00	2 時 間	佐賀市 アイス クエア	貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 有瀬浩美 馬場三佳	進捗状況報告	<ul style="list-style-type: none"> 各自の教材作成状況の報告 出来上がった教材の確認 試用について
3	平成 25 年 1 月 30 日 14:00～16: 00	2 時 間	佐賀大 学	貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 有瀬浩美	教材作成 取りまとめに ついて	<ul style="list-style-type: none"> 文字カードの作成 絵カードのラミネート加工 取りまとめについて

【写真】



5. 日本語教室の設置・運営

※当会“カスタネット”は、ボランティア教室へ通う前段階の「プチ言語保障」として日本語教育専門家による「初級日本語集中講座」を開講している。今年度は県内4か所で開講できた。

①唐津市で開講

(1) 講座名称 「初級日本語集中講座 in 唐津」

(2) 目的・目標

・初級レベルの外国籍住民に対し、日本語基礎文法学習を日本語教育専門家が、短時間で集中的に行うことにより、受講者の日本語学習をよりスムーズにスタートさせ、且つ日本語学習への意欲を継続させる。

・一般に上記目的は地域日本語ボランティア教室に任されているのが現状だが、当会が実施している「初級日本語集中講座」では日本語専門家が文法に特化して行うことで、ボランティアへの負担が軽減される。また、最寄りの地域日本語教室へ繋ぐことで、ボランティアと受講者の継続的な交流を促す。

(3) 対象者

来日直後の外国籍住民/日本語専門家による初期指導を受けていない、または体系的に学習していない外国籍住民

(4) 開催時間数(回数) 38時間 (全7回)

(5) 使用した教材・リソース 当団体“カスタネット”独自作成教材「日本語インテンシブ」

(6) 受講者の総数 3人

(出身・国籍別内訳 アメリカ1人、インドネシア1人、フィリピン1人)

(7) 受講者の募集方法

市報、フリーペーパー等の広報誌に掲載、市役所の市民課窓口、各公民館、図書館にチラシを置く、コミュニティラジオに広報を依頼する。

(8) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍(人数)	取り組みのテーマ	授業概要

1	平成 24 年 10 月 21 日 9:00~16: 00	6 時 間	2 人	アメリカ(1 人) フィリピン(1 人)	初級文法	挨拶、教室指示語、数字、月日 名詞文、動詞文
2	10 月 22 日 9:00~16: 00	6 時 間	2 人	アメリカ(1 人) インドネシア (1人)	初級文法	動詞文 助詞の整理
3	10 月 23 日 9:00~16: 00	6 時 間	2 人	アメリカ(1 人) インドネシア (1人)	初級文法	形容詞文 形容詞文の応用
4	10 月 24 日 9:00~16: 00	6 時 間	2 人	アメリカ(1 人) インドネシア (1人)	初級文法	存在文・所在文 動詞活用(分類・て形)
5	10 月 26 日 9:00~16: 00	6 時 間	2 人	アメリカ(1 人) インドネシア (1人)	初級文法	動詞活用(て形・た形・ない形・辞書 形)
6	10 月 27 日 9:00~16: 00	6 時 間	2 人	アメリカ(1 人) インドネシア (1人)	初級文法	丁寧体・普通体
7	10 月 28 日 10:00~12: 00	2 時 間	12 人	アメリカ(3 人) インドネシア (1人) ベトナム(6 人) 日本(2人)	日本語発表会 ボランティア交 流会	受講者の日本語スピーチ 修了書授与 唐津日本語教室との交流会

②佐賀市で開講

(1) 講座名称 「初級日本語集中講座 in 佐賀」

(2) 目的・目標

- ・初級レベルの外国籍住民に対し、日本語基礎文法学習を日本語専門家が、短期間で集中的に行うことにより、受講者の日本語学習をよりスムーズにスタートさせ、且つ日本語学習への意欲を継続させる。
- ・一般に上記目的は地域日本語ボランティア教室に任されているのが現状だが、当会が実施している「初級日本語集中講座」では日本語専門家が文法に特化して行うことで、ボランティアへの負担が軽減される。また、最寄りの地域日本語教室へ繋ぐことで、ボランティアと受講者の継続的な交流を促す。

(3) 対象者

来日直後の外国籍住民/日本語専門家による初期指導を受けていない、または体系的に学習していない外国籍住民

(4) 開催時間数(回数) 38時間 (全 6回)

(5) 使用した教材・リソース 当団体“カスタネット”独自作成教材「日本語インテンシブ」

(6) 受講者の総数 7人

(出身・国籍別内訳 中国1人、バングラデシュ1人、フィリピン1人、マレーシア1人、インドネシア3人)

(7) 受講者の募集方法

市報、市役所のホームページに掲載、市役所の市民課窓口、各公民館、図書館等にチラシを置く、

(8) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍(人数)	取り組みのテーマ	授業概要
1	平成24年 11月11日 9:00~16:00	6時間	6人	中国1人、フィリピン1人、マレーシア1人、インドネシア3人	初級文法	挨拶、教室指示語、数字、月日 名詞文、動詞文
2	11月12日 9:00~16:	6時間	5人	中国1人、フィリピン1人、マレーシア1人、	初級文法	動詞文 助詞の整理

	00			インドネシア1人、バングラデシュ1人		
3	11月13日 9:00~16:00	6時間	7人	中国1人、フィリピン1人、マレーシア1人、インドネシア3人、バングラデシュ1人	初級文法	形容詞文 形容詞文の応用
4	11月14日 9:00~16:00	6時間	7人	中国1人、フィリピン1人、マレーシア1人、インドネシア3人、バングラデシュ1人	初級文法	存在文・所在文 動詞活用(分類・て形)
5	11月17日 9:00~16:00	6時間	6人	フィリピン1人、マレーシア1人、インドネシア3人、バングラデシュ1人	初級文法	動詞活用(て形・た形・ない形・辞書形)
6	11月18日 9:00~16:00	6時間	6人	フィリピン1人、マレーシア1人、インドネシア3人、バングラデシュ1人	初級文法	丁寧体・普通体
	16:00~18:00	2時間	10人	フィリピン1人、マレーシア1人、インドネシア3人、バングラデシュ1人、日本人3人	日本語発表会 ボランティア交流会	受講者の日本語スピーチ 修了書授与 佐賀の日本語教室との交流会

③鳥栖市で開講

(1) 講座名称 「初級日本語集中講座 in 鳥栖」

(2) 目的・目標

・初級レベルの外国籍住民に対し、日本語基礎文法学習を日本語専門家が、短期間で集中的に行うことにより、受講者の日本語学習をよりスムーズにスタートさせ、且つ日本語学習への意欲を継続させる。

・一般に上記目的は地域日本語ボランティア教室に任されているのが現状だが、当会が実施している「初級日本語集中講座」では日本語専門家が文法に特化して行うことで、ボランティアへの負担が軽減される。また、最寄りの地域日本語教室へ繋ぐことで、ボランティアと受講者の継続的な交流を促す。

(3) 対象者

来日直後の外国籍住民/日本語専門家による初期指導を受けていない、または体系的に学習していない外国籍住民

(4) 開催時間数(回数) 38時間 (全 6 回)

(5) 使用した教材・リソース 当団体“カスタネット”独自作成教材「日本語インテンシブ」

(6) 受講者の総数 3人

(出身・国籍別内訳 中国1人、スリランカ1人、フィリピン1人)

(7) 受講者の募集方法

市報、市役所のホームページに掲載、市役所の市民課窓口、各公民館、図書館、近隣の町役場、子育て支援センター等にチラシを置く、

(8) 日本語教室の具体的な内容

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍(人数)	取り組みのテーマ	授業概要
1	平成24年 11月23日 9:00~16:00	6時間	2人	スリランカ(1人) フィリピン(1人)	初級文法	挨拶、教室指示語、数字、月日 名詞文、動詞文
2	11月24日 9:00~16:00	6時間	2人	中国(1人) スリランカ(1人)	初級文法	動詞文 助詞の整理
3	11月25日 9:00~16:00	6時間	2人	中国(1人) スリランカ(1人)	初級文法	形容詞文 形容詞文の応用
4	11月30日 9:00~16:00	6時間	1人	スリランカ(1人)	初級文法	存在文・所在文 動詞活用(分類・て形)
5	12月1日 9:00~16:00	6時間	2人	中国(1人) スリランカ(1人)	初級文法	動詞活用(て形・た形・ない形・辞書形)

6	12月2日 9:00~16:00	6時間	2人	中国(1人) スリランカ(1人)	初級文法	丁寧体・普通体
	16:00~18:00	2時間	11人	中国(1人) スリランカ(3人) 日本(7人)	日本語発表会 ボランティア交流会	受講者の日本語スピーチ 修了書授与 鳥栖の日本語教室との交流会

④武雄市で開講

(1) 講座名称 「初級日本語集中講座 in 武雄」

(2) 目的・目標

・初級レベルの外国籍住民に対し、日本語基礎文法学習を日本語専門家が、短期間で集中的に行うことにより、受講者の日本語学習をよりスムーズにスタートさせ、且つ日本語学習への意欲を継続させる。

・一般に上記目的は地域日本語ボランティア教室に任されているのが現状だが、当会が実施している「初級日本語集中講座」では日本語専門家が文法に特化して行うことで、ボランティアへの負担が軽減される。また、最寄りの地域日本語教室へ繋ぐことで、ボランティアと受講者の継続的な交流を促す。

(3) 対象者

来日直後の外国籍住民/日本語専門家による初期指導を受けていない、または体系的に学習していない外国籍住民

(4) 開催時間数(回数) 38時間 (全 6回)

(5) 使用した教材・リソース 当団体“カスタネット”独自作成教材「日本語インテンシブ」

(6) 受講者の総数 2人

(出身・国籍別内訳 スペイン1人、アメリカ1人)

(7) 受講者の募集方法

市役所のホームページ、フェイスブックに掲載、市役所の市民課窓口、各公民館、図書館、近隣の町役場等にチラシを置く。

(8) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍(人数)	取り組みのテーマ	授業概要
1	平成 25 年 2 月 15 日 9:00~16:00	6 時間	2 人	スペイン(1人) アメリカ(1人)	初級文法	挨拶、教室指示語、数字、月日 名詞文、動詞文
2	2 月 16 日 9:00~16:00	6 時間	1 人	アメリカ(1人)	初級文法	動詞文
3	2 月 17 日 9:00~16:00	6 時間	1 人	アメリカ(1人)	初級文法	動詞文 助詞の整理
4	2 月 22 日 9:00~16:00	6 時間	1 人	アメリカ(1人)	初級文法	形容詞文
5	2 月 23 日 9:00~16:00	6 時間	1 人	アメリカ(1人)	初級文法	形容詞文 形容詞文の応用
6	2 月 24 日 9:00~16:00	6 時間	1 人	アメリカ(1 人)	初級文法	動詞文
	16:00~18:00	2 時間	2 人	アメリカ(1 人) 日本(1人)	日本語発表会 ボランティア交流会	受講者の日本語スピーチ 修了書授与 武雄日本語教室との交流会

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)





(10) 目標の達成状況・成果

- ・ 日本語の初級文法を学んだことで、体系的に日本語を理解することができた。
- ・ その後もボランティア教室等で継続して学習することができている。
- ・ 今まで日本人との会話でよくわからなかったことが、理解できるようになった。また、その場でわからないことも、ボランティア教室で聞くことでわからないままという状態が減った。
- ・ 学習意欲が高まり、漢字を学んだり日本語能力試験に向けて勉強したりするようになった。
- ・ ボランティア側も、初級文法指導の負担が軽減できた。そのことにより、おしゃべり型の相互の学び合う交流がスムーズに行えるようになり、教室活動がより活発になった。
- ・ 事後アンケートによると、「期間設定について、1日6時間×6日間、集中して学ぶことは適切だ」という意見が多かった。

(11) 改善点について

- ・ 期間設定について、「1日6時間×6日間、集中して学ぶことは適切だ」という意見が多かったが、働いている人や小さい子どもがいる状況では、6日間続けるのは難しい場合もある。そのため、今年度は、祭日が入る週末に2週間に渡って実施すること等を試みたが、全日参加できない事例があった。今後は、午前(午後)のみの講座設定にするなどの更なる工夫が必要だ。
- ・ 県都である佐賀市はある程度の受講者の確保ができるが、その他の地域は受講者に周知するのが難しい。情報を得にくい人が的確に情報が得られ、安心して集中講座を受講できる環境を整えられるよう、行政担当部署と今後も継続して連携していく必要がある。
- ・ 受講者の確保がある程度できる佐賀市は、今後も日程を固定化させ、定期的に行うほうがいいが、その他の地域は日程を先に決めるのではなく、地域のボランティア教室と連携を図り、ある程度の受講者の人数把握ができた時点から周知広報を始めたほうがいいかもしれない。ただし、会場の確保や広報の面からは、なるべく早い時点での期日設定が必要になる。この辺のバランスが課題である。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

※佐賀県には、佐賀市以外には日本語教室が4市にしかない。県内各地域に散在している外国籍住民の手助けとなる人材を増やすことを考えた場合、県内の日本語教室空白地域で養成講座を行うのがいいと考えた。そこで、今年度は手始めに「出前講座」を県内の4市で開講し、その参加者を佐賀市で開講する「連続講座」に導いた。

①出前講座

(1) 講座名称 周辺地域から始める日本語支援ボランティア養成“出前”講座

(2) 目的・目標

外国籍住民が散在している地域という佐賀県の特徴を踏まえ、県下でピンポイントに外国籍住民が住んでいる周辺の町4か所で周知のためのキャラバン活動を行う。その“出前”講座では、当該地域の外国籍住民の状況や日本語ができない故の問題点を述べ、地域住民の支援の必要性を説いた。まずは関心を持ち、「外国籍住民への言語を学ぶ保障がなされていない」という現状に目を向けてもらうのが目的である。

(3) 対象者 地域住民

(4) 開催時間数(回数) 12 時間 (全 4 回)

(5) 使用した教材・リソース 各回適宜ハンドアウトを準備する。

(6) 受講者の総数 45 人
(出身・国籍別内訳 日本 45 人)

(7) 受講者の募集方法

各市町村の広報誌、新聞(佐賀新聞にこの取り組みを掲載してもらった)、テレビの媒体、ホームページ掲載、市民課窓口、公民館、学校へのチラシ、個別配布等

(8) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍(人数)	取り組みのテーマ	授業概要
1	平成 24 年 9 月 16 日	3 時 間	12 人	日本(12 人)	外国籍住民の状況、ボランティア	佐賀県、鹿島市の在住外国人の現状を知る

	13:00～16:00 鹿島市生涯学習センター「エイブル」				の心構え、日本語を外国語として捉える	やさしい日本語とは何か 日本語の基本文、助詞等を学ぶ
2	9月23日 13:00～16:00 神崎市中央公民館	3時間	10人	日本(10人)	外国籍住民の状況、ボランティアの心構え、日本語を外国語として捉える	佐賀県、神崎市の在住外国人の現状を知る やさしい日本語とは何か 日本語の基本文、助詞等を学ぶ
3	9月29日 13:00～16:00 多久市中央公民館	3時間	8人	日本(8人)	外国籍住民の状況、ボランティアの心構え、日本語を外国語として捉える	佐賀県、多久市の在住外国人の現状を知る やさしい日本語とは何か 日本語の基本文、助詞等を学ぶ
4	9月30日 13:00～16:00 伊万里市民センター	3時間	15人	日本(15人)	外国籍住民の状況、ボランティアの心構え、日本語を外国語として捉える	佐賀県、伊万里市の在住外国人の現状を知る やさしい日本語とは何か 日本語の基本文、助詞等を学ぶ

②連続講座

(1) 講座名称 周辺地域から始める日本語支援ボランティア養成“連続”講座

(2) 目的・目標

「“出前”講座」に参加した方や日本語支援に興味がある方に向けて、より実践的な「“連続”講座」を佐賀市で開講する。この講座を受けたあと、地域に戻って、出来るところから始める日本語支援へとつなげていく。外国籍住民を支援するための拠点作りと地域のコミュニティーのネットワーク作りを目指す。

(3) 対象者 地域住民

(4) 開催時間数(回数) 30時間 (全10回)

(5) 使用した教材・リソース

各回適宜ハンドアウトを準備する。「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的な

カリキュラム案・教材例集を使用する。

(6) 受講者の総数 37 人

(出身・国籍別内訳 日本 37人)

(7) 受講者の募集方法

佐賀県民だより、ホームページ掲載、県や市のボランティア通信、新聞、テレビの媒体、市民課窓口、公民館、図書館へのチラシ配布等

(8) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍(人数)	取り組みのテーマ	授業概要
1	平成 24 年 10 月 13 日 9:00~12:00	3 時間	22 人	日本(22人)	日本語支援ボランティアとは？ 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案を使って	県内のボランティア教室の紹介 佐賀市国際交流協会、当団体“カスタネット”の紹介 教材を使ってみよう「住民としてのマナーを守る」
2	10 月 27 日 13:00~16:00	3 時間	27 人	日本(27人)	日本語文法 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案を使って	基本文、形容詞について 教材を使ってみよう「医療機関で治療を受ける」
3	11 月 10 日 13:00~16:00	3 時間	20 人	日本(20人)	日本語文法 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案を使って	動詞文について 教材を使ってみよう「地域社会に参加する」
4	11 月 24 日 13:00~16:00	3 時間	19 人	日本(19人)	日本語文法 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案を使って	丁寧体、普通体について 普通形をつかう文型 教材を使ってみよう「災害に備え、対応する(地震/火事)」
5	12 月 8 日 13:00~16:00	3 時間	19 人	日本(19人)	佐賀県内のボランティア教室の活動状況を知らう	ボランティア活動とは ボランティア教室代表の方々のパネルディスカッション

6	12月22日 13:00~16:00	3時間	15人	日本(15人)	日本語文法 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案を使って	存在文・所在文について 普通形を使う文型 教材を使ってみよう「余暇を楽しむ・徒歩で移動する」
7	平成25年 1月12日 13:00~18:00	3時間	18人	日本(18人)	こどもの支援について	こども日本語サポーターの活動紹介 外国人児童生徒の特徴について ひらがなの指導についてのワークショップ
8	1月26日 13:00~16:00	3時間	18人	日本(18人)	こどもの支援について	JSL 児童生徒に日本語を教えることについての現状と問題点 日本語教材、小学校の教材を見てみよう(ワークショップ)
9	2月9日 13:00~16:00	3時間	21人	日本(21人)	九州大学・非常勤講師 和田玉己氏を迎えて	ボランティア活動のあり方 福岡市におけるボランティア支援活動(大人への日本語支援、多文化の子どもへの日本語教育など)の現状報告
10	2月23日 9:00~12:00	3時間	15人	日本(15人)	これまでのまとめ これからの活動について	日本語ボランティアについて再確認 作成教材の使用手法紹介 地域別に分かれて、今後の活動について話し合う

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)



(10) 目標の達成状況・成果

県下である程度まとまって外国籍住民が在住している佐賀市、鳥栖市、唐津市以外の周辺の町4カ所で周知のためのキャラバン活動を行った。「出前」講座では、「今まで意識したことがなかった日本語について改めて見つめなおすことができた」「日本語を外国の人に教えるのは簡単ではないことに気づいた」「やさしい日本語に言い換えることが難しい」「身近な外国の人に何か役に立ちたい」などの意見が出た。「出前」講座では、地域を限定して実施したことで、参加が容易であったことと、地域のネットワークを作ることが出来たことが成果である。

その後の「連続」講座では、佐賀県下の日本語ボランティアに興味を持つ人が1か所に集まったことで他地域の状況を見聞きすることができた。内容は「生活者としての外国人」に対する標準的カリキュラム案の教材例集を使用して、より具体的で、実践的な日本語の知識を学ぶことができた。また、既存のボランティア教室の活動の様子を聞いたりする機会を設けたり、近隣地域の人同士が親しくなるように配慮したことで、今後の活動への足掛かりができた。

成果として、地域の拠点作り、さらには日本語ボランティア教室開設へという具体的な行動に繋げることができた。実際に1地域では、すぐにも日本語教室が始められるほど具体化しているし、他の3か所についても、教室開設の機運が高まっている。来年度はそこに日本語教室が実際に開設されるよう、更なる後押しが必要である。

(11) 改善点について

講座終了後の受講者の活動のコーディネートをする必要があった。講座を受講し、これから活動して行こうという意欲が冷めないうちに具体的な活動方向を示さなければならない。

「出前」講座の周知には、市報より新聞掲載やインターネット上での告知が有効であった。いろいろな媒体を使って、広く情報を伝える手段を考えなければならない。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称 「ボランティア養成講座」や「地域日本語ボランティア教室」で使えるカードセット

(2) 対象

- ・地域在住日本語支援ボランティア
- ・外国籍住民
- ・ボランティア養成講座受講者
- ・地域の日本語教育に関わっている専門家

(3) 目的・目標

「地域日本語ボランティア教室」や「ボランティア養成講座」、及び「初級日本語集中講座」で使

用するための、絵カード・文字カードを作成する。ボランティア養成講座の受講生や地域在住日本語ボランティアが、簡易に使えるカードセットを目指す。使い方の手引書も作成する。

(4) 構成

- ・絵カード(挨拶、物の名前、動詞、形容詞)
- ・文字カード(動詞)
- ・カードの使い方の手引書

※取り上げた表現や語彙は、当団体“カスタネット”独自作成教材「日本語インテンシブ」の内容に即している。日常生活の中で使用頻度が高いものを取り上げている。

(5) 使い方

・絵カード

絵を見せて、意味を知る、読むなどの練習をする。

動詞や形容詞などの活用の練習、状況を設定して文型の練習をする。

状況を設定して会話練習をする。

作文練習に使用する

・文字カード

動詞の活用の練習をする。

「て形」の作り方を覚える

(6) 具体的な活用例

・地域在住日本語支援ボランティア

ボランティア教室で日本語を教えるときの副教材として使う。

(絵を見せて、語彙を言わせる(覚えさせる)／絵を見せて、活用形を言わせる／絵を見せて文を作らせる等)

動詞の活用表は、1段ずつ使ってもいいし、一覧表として使ってもいい。

・外国籍住民

ダウンロードしたものを、自宅学習用に使う。

・ボランティア養成講座受講者

養成講座で使用方法を学び、自宅でダウンロードして練習する。

・地域の日本語教育に関わっている専門家

地域の日本語教育に関心を持つ専門家による「初級日本語集中講座」の副教材として使う。

(7) 成果物の添付

<http://1st.geocities.jp/castanetsnihongo/4.html> “カスタネット”ホームページに公開

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

佐賀県は外国籍住民の散在地域である。佐賀県の中心地である佐賀市以外でも、在住する外国籍住民の数は増加しているが、地域日本語教室も、支援する住民もその数は増えていない。佐賀市のみで開講する「初級日本語集中講座」と、地域日本語ボランティア教室に外国籍住民が来るのを待つのではなく、外国籍住民が暮らす各地域で「初級日本語集中講座」を開講し、また、講座終了後の受講者と関わりを持ってくれる地域在住日本語支援ボランティアを養成して、外国籍住民が自立した生活ができ、地域住民との交流が深まるように支援するのが目的である。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

・「初級日本語集中講座」は、佐賀市ではある程度の受講者を確保することができ、佐賀市内の日本語教室へつなげていくことができた。その他の地域では人数は少なかったが、来日間もない人、前回受講できなかった人、再受講する人、数年住んでいても初めて集中講座を知ったという人などが受講した。受講者はその後も日本語教室へ行ったり、個人的に会ったりして、今もボランティアとの交流が続いている。

・「日本語支援ボランティア養成“出前”講座」では、佐賀市まで遠くて行けないという人や、日本語ボランティアに少し興味があり、3時間だけなら聞いてみようかという気持ちの人も気軽に参加することができた。その後の「“連続”講座」では、「“出前”講座」からの参加者が大勢佐賀市に集まってくれた。往復数時間の道のりにも関わらず、10回の講座全てに参加した人もいた。最初に身近な地域で講座を行ったことで、まず、その地域の人とのつながりができた。その後の講座で興味と知識が深まり、地域の拠点づくり、さらには何か始めようという具体的な行動につながった。今回の講座では「出前」から「連続」へという2段階の活動は効果的だったと言える。

・作成した絵カードは、「初級日本語集中講座」の授業の中で試用してみた。視覚的な効果で受講者のより良い理解につながった。文字カードは、動詞の活用の理解、練習、定着ができた。今後、各地域の日本語ボランティア教室の勉強会等で使用方法を紹介し、活用してもらいたい。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

「日本語支援ボランティア養成“連続”講座」で、標準的なカリキュラム案を使用した。カリキュラム案の教材例集から数項目を選んで、それを使ってワークショップをしたので、実際に活動するためのいいシミュレーションができた。日本語がわからない人にとって、どういう言葉やどういう場面がわからないのか、難しいのか、疑似体験をすることで、どういう言葉に変え、どういう言葉かけをすればわかってもらえるのかを考え、受講者同士で共有することができた。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

平成 23 年度の事業から継続して開講できた地域の関係者とは、昨年度の成果と反省を踏まえ、より効果的に周知活動ができ、スムーズな連携ができた。今回初めて連携を行った地域の関係者には、まず「日本語支援ボランティア」という視点に立ってもらい、地域の国際交流活動には外へ目を向けたものだけでなく、地域に在住している外国籍住民の問題があることに気付いてもらった。「出前」講座には、各地域の行政担当者が参加して、地域住民と共にいろいろ考えてくれた。引き続き連携をしていくことで、今後の「初級日本語集中講座」の開催や、地域のボランティア教室の立ち上げの際の大きな支援になるだろう。

(5) 改善点, 今後の課題について

「初級日本語集中講座」では、佐賀市以外の地域では、まだまだ認知度が低いのがわかった。周知していくためには、地域の行政関係者や地域のボランティア教室との連携が大切である。地域にボランティア教室があれば、その教室が継続運営できるようにコーディネートをしていく。また、地域にボランティア教室がない場合は、「連続」講座受講終了者の方々とともに具体的な教室開設へ向けて動いていく。作成した教材は、インターネット上からダウンロードできるので、教材を持たない周辺地域のボランティア教室や個人で日本語支援をするボランティアに有効活用されると思われる。